



令和6年9月1日発行

甲州市塩山 ひがし公民館だより

館長 佐田 弘和 ()
主事 平山 茂 ()

茶道の趣とは？～茶道入門教室終わる～

今年度2回目の公民館主催行事『茶道入門教室』が去る7月21日(日)に行われました。講師には吾妻由美子先生をお招きし、11人の生徒に茶道の趣を教えてくださいました。



茶道と聞くと、茶席が設けられた和室で行わなければならないと思いがちですが、吾妻先生のご配慮によりリラックスした雰囲気の中で初心者にも体験できるようにと、1階のホールで毎年行っています。とはいえ場の雰囲気を出すために床の間の飾りを用意してくださいました。細かいお心遣いに納得。

茶道に関する専門用語もいくつか教えてくださいました。例えば…

「なつめ」・・・抹茶を入れる容器のこと。「棗」の実に似ていることからこの名前がついているそうです。

「薄茶は点^たてる 濃茶は練^ねる」・・・全てのお茶を「点てる」わけではないのですね。

「お香が聞こえてきます」・・・お香の香りがすること。言われてみるとイメージできます。なんとも趣があります。

まずは先生が用意してくださったお菓子をいただきながら先生が点ててくださった茶を一杯。私にはお菓子の味はわかるのですが、お茶の味はなんともよくわからず…。(苦笑)参加した生徒の皆さんは穏やかな顔で味わっていました。

次はお点前の体験です。抹茶やお湯の量や点てる時の茶筌(ブラシのようなもの)の動かし方(たくさん泡がたつように)、頂くときの手のそえ方等々、さまざまな部分について先生からアドバイスをいただきながら全員が体験することができました。



「茶道」というとその「作法」が真っ先に浮かんで来て私たち素人にはハードルが高く感じるものでしたが、講師の吾妻先生は、基本的な部分以外は不問に付してください、楽しむことを前提に教室を進めてくださいました。先生のお話を伺ったりさまざまな体験をしたりして感じたことですが、茶道の神髄は、お茶を点て、それをいただきながらそこにいる人々とのかかわりを楽しむことなのではないかということでした。今回の教室は「茶道入門教室」でしたが、その名のとおり「入門」することができたかなと感じました。おごそかな、そして和気あいあいとした楽しい教室でした。参加してくださった皆さん、そして吾妻由美子先生、本当にありがとうございました。

アサガオ競作展示会 ～下於曾東延寿会～

暑さ厳しき8月1日（木）に、下於曾東延寿会の皆様によるアサガオ競作展示会の表彰式に出席しました。会場の於曾公園の藤棚の下にはたくさんの力作がずらりと並び、酷暑の中にも涼しげで、清々しい雰囲気を感じさせてくれました。

このたくさんのアサガオは、延寿会の皆さんによって5月に種がまかれ、今日のこの日のために丹精込めて育てられてきました。競作展示会ということなので、花の色や形や数、葉の大きさや色、花と葉のバランス等々、様々な観点で審査が行われるそうです。私も間近で一つ一つの鉢を見させていただきましたがどれも甲乙つけ難く、審査員の方の苦悩が想像できるようでした。



この展示会に出品するための御苦労もあるようです。それは、この審査の当日に、いくつの花がどこにどのように咲くのかが見通せないため、コンディションを整えるのが難しいとのこと。延寿会の皆さんは、お一人で複数の鉢を出展されていましたが、そんな理由もあるのかなと思われました。

この展示会はもう

30年以上も継続され、この地域の夏の風物詩として皆さんに親しまれてきました。このたくさんのアサガオの花が後に種となり、また来年に花を咲かす、そんなことを考えて思わず心が温まったひと時でありました。延寿会の皆さんにはますますお元気で、また来年素晴らしい花を咲かせていただきたいと思いました。



ゆく夏に…

～俳句教室塩寿会の皆様～

古道際 昭和の匂い 百日紅

(中村 操)

百日紅 色吹き出した 泡の様

(吉田 功子)

蝉の声 我が耳鳴りか 夢うつ

(河村 ひさ子)

母の声 歴史をきくる 百日紅

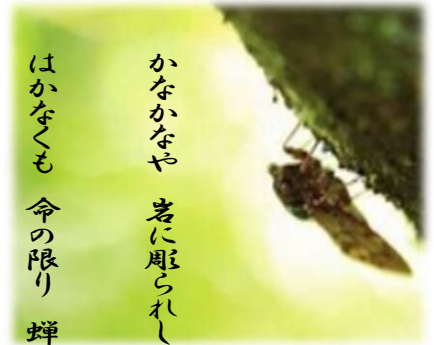
(小沢 一恵)

この暑さ こぶしの利いた 蝉時雨 (内田 詠子)

炎天下 蟻も汗掻く アスファルト (沢登 昌弘)

はかなくも 命の限り 蝉時雨 (常泉 仁志)

かなかなや 岩に駆られし 供養仏 (三枝 茂男)



9月10月の
予定

- 防災訓練・・・各地区で実施。回覧板等を参照してください。
- クラフト教室・・・10月18日（金）から3回シリーズで実施します。詳しくは来月のお便りでお知らせします。
- 秋のハイキング・・・10月20日（日）方面は未定
- 臨時運営委員会・・・10月27日（日）文化祭について